

竹富島で感じたこと



国立教育政策研究所
教育課程調査官

平木 裕 氏

教育随想

昨年の十月、沖縄県の竹富島を訪れる機会を得た。三百人余りが暮らすこの島には、「竹富町立竹富小中学校」がある。島唯一の学校である。その名のとおり、小学校と中学校の併置校であり、全校で三十七人の子供たちが学んでいる。

気さくな校長先生が、さっそく島をあちこち案内してくれた。そのとき感じたのは、コミュニティの中にこの学校があるということである。ビーチへ行けば、アクセサリーなどの土産物を売るお嬢さんが、「校長先生！」

とすかさず声をかける。民俗資料館に入ると、館長さんとの間でさつき世間話に花が咲く。あるテレビドラマのロケ地となった民家では、母親と三歳くらいの男の子が出迎えて

くれ、縁側に座ってお茶をいただく。「〇〇、元気か？」

と、すぐさま男の子の名前を呼ぶ校長先生。上の子を学校へやっているこの母親は、児童の保護者でもある。学校では、全ての児童生徒と教職員が、ランチルームで給食を楽しんでいる。子供たちと先生方の距離が近い。小学生と中学生の間に壁がない。まさに「一体感」である。

このような様子を目の当たりにしながら、ふと小中連携の理想型を見る思いがした。

私が担当する外国語教育においては、昨年度から、小学校に「外国語活動」が本格的に導入され、従来の「英語学習のスタートラインは中学校」という構図が大きく変わった。中学校には、外国語活動での子供の



平成25年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
国立教育政策研究所 教育課程調査官 平木 裕氏	
この人に聞く	2
ロンドンオリンピック 400mハードル出場 中村 明彦氏	
羅針盤	2
生活・総合指導員 船越 学	
ふれあい	3
南中 村田 秀実	
特集	4
受け継がれる伝承遊び ～人と人との関わりから学ぶ～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
敬信寮	
この本を	8

状況や授業の実態を踏まえ、小中間のスムーズな接続が図れるような授業改善を求めている。

竹富小中学校の一体感から、その思いを改めて強くした。

(ひらき ひろし)

この人に聞く



高い目標に向かって

ロンドンオリンピック

四〇〇mハードル出場

中村 明彦 氏

「レースでは、ゴールまでのイメージを一通り作ってスタートに立ちます。ロンドンオリンピックのとき、この場所で日本とつながっているのは、この空だけなんだと思ったから、自然と空を見上げていました。」

夢の舞台に立ったときの心境を、静かにそう語った。

陸上を始めたのは中学時代。最初は体力作り程度の気持ちで取り組んでいたという。

「どんだんタイムが上がっていくことに喜びを感じました。また、シンブルな体の動きの中にも奥深さがあることに感動して、陸上にのめり込んでいったという感じですね。」

平成十七年の岡崎市民駅伝で区間賞に輝くなど、六ツ美北中学校時代から才能は次第に開花していった。

その後は城西高校に進学し、混成競技のトレーニングを始めた。平成二十年のインターハイでは、八種競技で高校新記録を出す快挙を果たし、大学生となった現在、十種競技を専門としている。十種競技は、短・中距離走、障害走、投てき、跳躍など、異なる身体能力を必要とする、過酷な競技である。

「二日間でいろんな種目をやるので、体力的に苦しいときもあります。しかし、最後に一五〇〇mを走った後、ライバルたちと握手をしたり、抱き合ったりする瞬間が楽しいですし、充実感があつて、この競技の虜になってしまいました。」

平成二十四年の日本選手権で、十種競技と四〇〇mハードルの二種目で二位に輝いた。今回は四〇〇mハードルで選考され、オリンピック出場に至った。

競技生活の中、心の支えにしてくれたのは、高校時代の恩師に言われた、「強くなるには、練習するしかない」という言葉であった。

「今までを振り返って、きつかった練習は何かと聞かれても、なかなか出てこないですね。練習はそんなに苦痛じゃないですし、十種競技はいろいろとやることがあるので、新しい発見の連続で楽しいです。」

毎日平均五時間の練習をこなし、休日は朝から夕方まで汗を流すという。「オリンピックに出る前は、出場できるだけです」と思っていました。しかし、出てみたら、戦いたい、勝負したいと思うようになりました。」



予選敗退という結果で、オリンピックは終わってしまった。しかし、その目は、もう未来を見ている。

「リオデジャネイロオリンピックでは十種競技で出場して、何の種目でもいいから、世界の舞台で一着でゴールしたいですね。」

次なる目標は、さらに大きい。

「高い目標に向かって頑張ろうと思つています。そうすれば、今やつていることは、もつと上に行くための一歩であるし、通過点にしかならないと思えるようになります。」

ロンドンオリンピックでの経験は、すでに、次の高みに向かうための通過点となっているのであろう。

世界を相手に戦う中村選手は、憧れの選手を聞かれて、こう語った。

「誰といていないです。将来、僕が第一人者になって、目標とされる人になりたいと思つています。」

自分自身を鼓舞するべく、目標を高く掲げるその姿は、夢を追い求めたいこうとする力強さに溢れていた。

氏名 なかむら あきひこ
生年月日 平成二年十月二十三日
住所 名古屋市在住

羅針盤



地域との関わりを生かした

環境学習

生活・総合指導員 船越 学

「野生のシカを見たことがある人。」

A中一年、総合的な学習の授業でB先生の問いに、「森から出てきて家の辺りを走り回っていました」「サツカーに行くとき、田んぼを横切っていました」と二人の生徒が答えた。

環境学習プログラムは、持続可能な社会づくりに、主体的に参画できる人材の育成をねらいとし、中学一年では「人間と自然との共生」を指し、地域の環境を知ることから意識を高めることが求められている。

学習課題「考えようシカの捕獲について賛成? 反対?」に対し、B先生が県内のシカの分布図を示したり地球温暖化にも原因があることを確認したりした後、討論が始まった。

「シカだらけになると、森が荒れてしまふから賛成です」「増えすぎると被害金額も増えるので賛成です」。賛成



最後の夏

南中 村田 秀実

南中ソフトボール部の生徒は、皆底抜けの明るさをもっている。とりわけキャプテンのA子は、笑顔の光る生徒である。運動神経も抜群で、キャプテンとピッチャーを任せており、まさにチームの大黒柱だ。しかし、A子はチームをまとめきれない歯がゆさで毎日悩んでいた。

「みんなどうして全力でボールを追わないんだろう。もっと広く守ってほしい。」

そんな不満を聞いた私は、「自分の力にもっと自信をもちなさい。いつかA子の思いは伝わるよ。」と声をかけ続けた。

市長杯の朝、いつも通りのやる気に満ちた生徒たちの顔。私の緊張感をかき消すように、「先生、絶対に勝ちましょうね」と笑顔で口々に挨拶する。A子の表情はとびきり明るかった。「絶対勝つよ」と声をかけ、チームメイトを鼓舞している。そんな生徒の姿を見て、今日は必ず勝て

る。そう私は確信していた。

試合開始早々、A子の打席だった。俊足のA子がファーストベースを駆け抜けたとき、思いもよらない事態が発生した。足を引きずり、表情も険しい。慌てて駆け寄ると、

「くじいちゃった。でも大丈夫。」

と平静を装い、A子は言った。そのゲームは何とか勝てたが、試合後、A子の足は倍ほどに腫れ上がっていた。応援にいらしていた母親に病院へ連れて行っていただいた。私は無事を祈った。

翌朝、キャッチャーのB子が駐車場で私を待っていた。

「先生、大変。A子の靭帯じんたいが切れかけているって。」

今、病院でテーピングをしてもらっているという。緊急ミーティングで、私が「今日、A子は投げられない」と言いかけると、

「A子の分も、私が守備範囲広げてください。」

とショートの子が胸を張って言った。他の生徒も次々に、A子をフォローすると訴えてくる。私は試合直前まで迷い続けた。

試合会場に現れたA子は、どうしても投げたいと言う。その言葉で迷いは消えた。「打たれてもいい。A子らしく笑顔で投げておいで」とグラウンドへ送り出した。チームメイトはA子を励まし続けた。必死にボールに飛びつき、守り抜いた。A子の必死さが、チームの心を一つにした。

そして、見事に目標の西三大会出場を決めたのだ。

A子は、チームがまとまらないことに日々悩んだ。しかし、苦しいときにもあきらめないその姿勢を見せることで、チームの輪を作り上げた。引退の日、A子は言った。

「ソフトボールやってきて、本当によかった。」

その眩しい笑顔は、キャプテンを務めあげた自信に満ちていた。この夏を最後に、南中ソフトボール部は廃部になった。最後の夏に大きな感動を残してくれた生徒たちに、私は心から感謝したい。



意見が相次ぐ中、賛成の立場だった生徒が、「捕獲しすぎてもいけない。シカも悪気があるわけじゃないし」と発言した。

これをきっかけに、「シカにとって捕獲された家族は戻ってこないけど、人はまた野菜を作ればいい」「畑の柵とか、人にはシカのためにできることがある」と、賛成、反対の立場にとらわれない発言が続いた。

「日々の暮らしとの関わりや地域との関わりの中から『本気の学び』が生まれる」。文部科学省の田村学教科調査官の言葉である。地域の「人・もの・こと」に繰り返し関わることで、子供たちの意識は高まり、ふるさとを持続可能な社会にしていこうという思いが育まれていく。

最後にビデオが流された。市の依頼でシカやイノシシを捕獲しているCさんが、B先生のインタビュに答えていた。「人間には、動物たちを次の世代につなげていく務めがあると思う。野生生物が住めない社会というのは、人間も住めない社会でことだからね」。野生生物と人間が共に生きるための視点を示された。動物の命の大切さと人の生活について、各立場から考えを深めた生徒たちの活動は、市内の様々な公園での環境調査に発展していった。



～人と人との関わりから学ぶ～

受け継がれる伝承遊び

▲ 「いきいきふれあいの日」で高齢者の方と紙玉鉄砲作りをする児童（形埜小）

子供を取り巻く環境は昔と大きく変わり、遊びも変化してきた。一昔前は、公園や広場では、集団で遊ぶ子供の姿が多く見られた。しかし、小中学生の九割以上がゲーム機を持っている現代、遊びはゲーム機に依存し、同じ空間にいても関わりをもたず、個々に遊ぶ子供が目立つ。子供とその親に行った伝承遊びについてのアンケート結果からも、世代による遊びの違いが見えてきた。親世代は、ゴム跳びやかんけりなどに多くが親しんだ。一方、今の子供は、腕ずもうやけん玉、お手玉など一人や二人で遊ぶものを好む。大勢で遊ぶ経験が乏しく、みんなで遊ぶ楽しさを知らないのかもしれない。

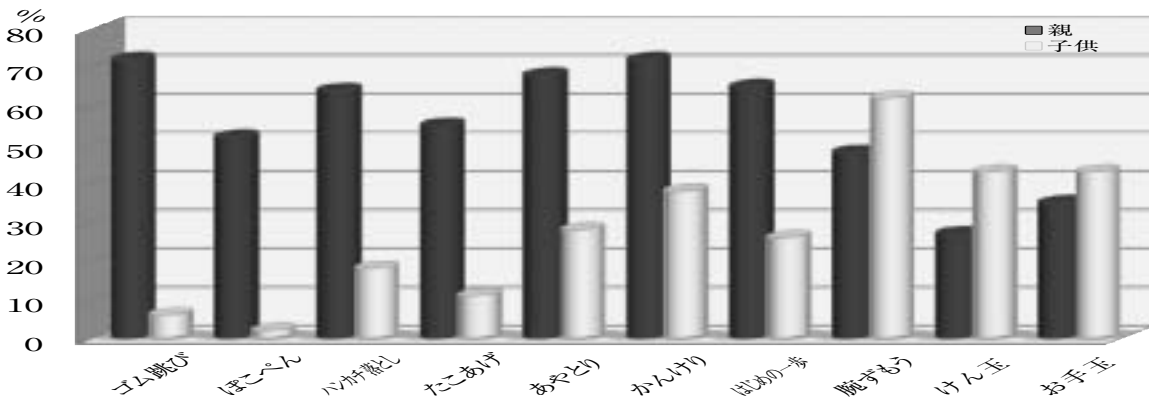
近年、伝承遊びが注目されている。伝承遊びは、身体的な能力をはじめ、異年齢集団で遊ぶことで人と関わる力や規範意識を育て、遊びを工夫したり創造したりする力を養う。

伝承遊びの効能を生かそうと、学校ではさまざまな取組みが行われている。生活科で高齢者の方と交流しながら伝承遊びを学んだり、社会科の学習として伝承遊び体験を行ったりする学校は多い。梅園小学校の「昭和の遊びクラブ」は、天下泰平やゴムとび、あやとりなど屋内外のさまざまな遊びを体験し、異年齢交流をしている。形埜小学校では、学校行事として紙玉鉄砲作りや竹トンボ作りなどを通して、祖父母や地域の老人会の方と交流を深めている。また、市内の「放課後子ども教室」でも、地域のボランティアと交流しながら伝承遊びで遊ぶ取組みが行われている。しかし、こうした取組みには課題もある。講師の高齢化や遊びを知らない世代の増加である。伝承遊びを子供に伝えることのできる人材の確保が難しくなっているのである。

人と人との関わりのおかげで受け継がれてきた伝承遊び。子供たちへ伝え続け、次世代、次々世代へと受け継いでいきたいものである。

好んで遊んだ伝承遊び

【市内抽出小学校6年生204名・その保護者174名の複数回答アンケートより】



親世代と子供たちを比べて

親の声

- ・テレビゲームのように複雑でなく、単純で素朴な遊びがいかに楽しいかを知ってほしいです。子供たちが親になった時には、子供にも伝えてほしいと思います。(父親)
- ・人と人との関わりが人生の中で大切だということを昔の遊びを通して学んでほしいです。(母親)

放課後の取組み

岡崎市の「放課後子ども教室」は、市内8館の学区こどもの家（生平、根石、愛宕、常磐東、常磐、奥殿、大樹寺、恵田）で開かれている。小学生を対象に、地域ボランティアの方々と交流しながら伝承遊びも行っている。



▲ 百人一首クラブ（連尺小）

4、5、6年生が隔週に1時間のクラブ活動で百人一首に親しんでいる。

クラブ活動での取組み



▲ 昭和の遊びクラブ（梅園小）

Sけんやメンコなど、体を使ってみんなで楽しめる遊びを体験している。写真は、「天下泰平」で遊んでいる児童たちの様子である。



▲ 竹馬クラブ（六ツ美中部小）

学区の体育祭では、竹馬や一輪車競争といった種目も行われている。

授業での取組み



▲ 生活科「めざせ！遊び名人」（三島小）

毎年1年生がこま、あやとり、けん玉、お手玉などの伝承遊びに挑戦している。昔遊びを通して、祖父母と触れ合ったり、2年生との異年齢交流を行ったりしている。

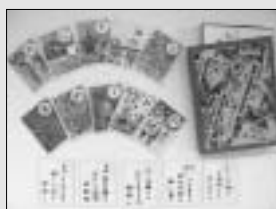
伝承遊びを通して、祖父母や2年生などさまざまな人と触れ合い、その人の遊び方の工夫やよさに気づき、互いに認め合うことをねらいとしました。子供たちは、技のこつを見つげたり、技のレパートリーを広げたりすることができました。また、伝承遊びを通して、人と触れ合うことの温かさを感じることができました。
（三島小 教諭）



▲ 国語科「百人一首大会」（新香山中）

中学校では、国語科の学習の一環として、百人一首に親しむ取組みが行われている。授業時間を確保するため、伝承遊びに割く時間を生み出すことは簡単ではないが、伝承遊びから学ぶことは多い。

「ふるさとカルタ取り大会」(生平小)



▲ 生平ふるさとカルタ

行事での取組み

「ふれあいデー」(常磐小)



▲ 割り箸鉄砲で遊ぶ児童

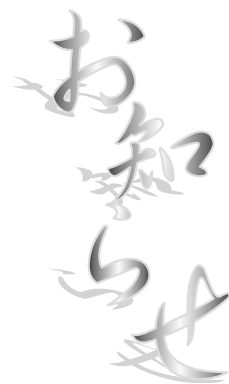
地域の方を招いて、さまざまな講座が開かれる。「割り箸鉄砲」「風車遊び」などに親しんでいる。

「いきいきふれあいの日」(形埜小)



▲ 地域の方とおじゃみで遊ぶ児童

竹と竹をしばるのが難しかったけれど、おじいさんが手伝ってくれました。こつを教えてもらって練習したら、竹馬に乗れるようになってうれしかったです。(形埜小 6年)



● 教育最新情報

○平成二十五年度全国学力・学習状況調査

◆調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

◆調査事項

小学校は、国語・算数、中学校は、国語・数学で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を出題し、調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

◆調査の方式

平成二十五年度は、小学校六年生と中学校三年生の全児童生徒を対象として調査が行われる。本調査を行うことにより、全ての市町村・学校等の状況を把握する。また、経

年変化分析や経済的な面も含めた教育格差を把握するため、調査等を新たに実施し、きめ細かい把握・分析を行う。

これによって、教育施策の

成果と課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等を、きめ細かな形で行う。

◆調査実施日

平成二十五年

四月二十四日(水)

○平成二十五年度岡崎市教員免許状更新講習

平成二十五年度も、岡崎市

による独自の教員免許状更新講習を行う。市内で、夏期休業中に、無料で行う。

岡崎の教育に携わる講師によって行い、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な講習内容とする。

◆受講対象者

1 岡崎市立学校・幼稚園に勤務する本務職員と常勤・非常勤講師で、次の生年月日(平成27年3月31日時点の満年齢)に該当する方

昭和34年4月2日、

35年4月1日(満55歳)

昭和44年4月2日、

45年4月1日(満45歳)

昭和54年4月2日、

55年4月1日(満35歳)

2 1以外で、延期申請を行い、修了確認期限が、平成26年3月31日の方

3 その他、岡崎市教育委員会が必要と認める方

各園・学校で受講対象者について確実に把握するとも

に、受講対象者自らがしっかりと自覚し、確実に更新講習受講の申請をしていきたい。

受講申込書の提出は、四月

に行う。

◆受講申し込み期間

平成25年4月1日(月)～

4月19日(金)

◆講習期日と会場

①必修講習

平成25年8月3日(土)

4日(日)

②選択講習

平成25年8月6日(火)

7日(水) 8日(木)

会場は、総合学習センター等。

◆受講対象者説明会

平成二十五年度の受講対象者に対して、説明会を次のように行う。

期日

平成25年3月1日(金)

場所

総合学習センター大ホール

○「おかざきの心の歌」全曲

カラオケ配信

昨年度完成した「おかざきの心の歌 夢三部作」が、今年、カラオケ配信された。「夢ふくらませ」については、画面に岡崎市の情景が映し出される、オリジナル映像となっている。

ジョイサウンドから全国配信されているほか、家庭用カラオケサービスとして、任天堂Wiiやプレステでも歌える。

配信されている機種は以下の通り。

■JOYSOUNDシリーズ

・CelebJoyHearts (XJ-60)

・JEWEL (XJ-J1)

・HyperJoy V2 (JS-70\JS-70II)

・HyperJoyWAVE (JS-W1)

・CROSSO (JS-WX)

・JOYSOUND f1 (JS-F1)

■UGAシリーズ

・UGA (UGA-01)

・uga plus (UGA-10)

・uga next (UGA-N10)

・uga next Lite (UGA-N10)

・neon R2 (NMU-R20)

■リビング向けサービス

・任天堂ゲーム機Wii向けカラオケ『カラオケJOYSOUND Wii』シリーズ

・ソニーゲーム機Play Station 3向けカラオケ『JOYSOUND DIVE』

・ソニー液晶テレビ

・ブラビア向けカラオケ『JOYSOUND.TV』

・パソコン向けインターネットカラオケ『ジョイサウンドカフェ』

・ジョイサウンドから全国配信されているほか、家庭用カラオケサービスとして、任天堂Wiiやプレステでも歌える。

配信されている機種は以下の通り。

■JOYSOUNDシリーズ

・CelebJoyHearts (XJ-60)

・JEWEL (XJ-J1)

・HyperJoy V2 (JS-70\JS-70II)

・HyperJoyWAVE (JS-W1)

・CROSSO (JS-WX)

・JOYSOUND f1 (JS-F1)

●表 彰

◆第47回全国野生生物保護実績発表大会

文部科学大臣奨励賞

生平小学校

◆第62回全国小中学校作文コンクール全国審査

低学年の部 県最優秀賞

六ツ美中部小二年 土屋晃希

◆第37回みどりの絵コンクール(全国)

最優秀賞

北野小二年 中垣いづみ

◆二〇二二年度ソニー子ども科学教育プログラム(全国)

奨励校 美川中学校

葵中学校

福岡中学校

◆第5回こども環境大賞(全国)

学校賞 根石小学校

◆第27回国民文化祭・とくしま

二一〇二一 吹奏楽の祭典

全日本吹奏楽連盟理事長賞

竜美丘小学校

◆平成24年フラワー・ブロー・コンクール(東海北陸)

秋花壇コンクール

愛知県大賞(最優秀賞)

六ツ美中部小学校

優良賞

奨励賞

三島小学校

岡崎小学校

細川小学校

上地小学校

形埜小学校

細川小学校

六ツ美中部小学校

形埜小学校

学校花壇設計図コンクール

県知事賞 形埜小学校

東山動物園モデル花壇設計図

コンクール

名古屋市長賞 形埜小学校

中部日本吹奏楽コンクール

本大会

優勝

美川中学校

水野雅大・鈴木崇大 女子の部

岩崎 優・築瀬隼太 五位

市川桂也・齋藤祐一 六位

木村太郎・竹内 舜 六位

城北中学校

三 位

島川波山・近藤マコ

田邊愛博・鈴木大輝

※全員が三年生

◆第31回愛知県中学生バレー

ボール新人大会

男子の部

二位

矢作北中学校

女子の部

優勝

南中学校

三位

矢作中学校

※三校は東海大会出場

◆第61回愛知県中学校駅伝大会

男子の部

二位

東海中学校

南中学校

中山中学校

甲山中学校

◆愛知県教育・スポーツ振興財団第5回こども絵画コンクール

小学校高学年の部

中日新聞社賞

形埜小六年 柴田 京香

◆平成24年度 第39回岡崎市

小学生作文コンクール

最優秀賞

上地小四年 川合 健斗

福岡中二年 榎島 啓介

優秀賞

六ツ美西部小五年 石川 里南

井田小一年 鷺見 萌希

銀賞

根石小六年 小澤 円香

六名小二年 浅井 咲希

◆第62回全国小中学校作文コンクール愛知県審査

優良賞

矢作北中二年 岩田 毬那

◆第8回徳川記念財団コンクールin岡崎 徳川家康公作文

コンクール

最優秀賞(徳川賞)

常磐小六年 柴山もなみ

大樹寺小二年 深津 拓未

宮崎小六年 杉浦 一輝

附属岡崎中二年 那良部亮佑

・カ
ツ
ト
井田小
川村 たくみ

敬 信 寮

(平成 15年)

写真提供：額田中学校

額田中学校は、昭和四十七年に、豊富、宮崎、形埜、下山の四中学校を統合し、設立された。現在の岡崎市の約半分を占めるほど学区の面積が広く、通学が困難な生徒のため、昭和四十八年に造られたのが敬信寮である。敬信寮が開設された当時は、全校生徒四六九人のうち一九六人が寮生であった。平成二十四年現在、六十九人が寮生活を送っており、父母に代わって、寮監、寮母、調理員ら二十名のスタッフが温かく支えている。

写真は、生徒たちが寮の部屋で学習している様子を撮影したものである。一部屋に五、六人の生徒が、縦割りで生活を共にしている。洗濯や食事の配膳、風呂掃除などは、寮生が当番活動で行う。寮での生活習慣が、今も先輩から後輩へと受け継がれている。

フォトヒストリー

岡崎の教育



この本を

- * 生命の未来を変えた男
山中伸弥・iPS細胞革命
NHKスペシャル取材班
文芸春秋 ￥1,500
- * 新島八重 愛と闘いの生涯 吉海 直人
角川選書 ￥1,680
- * 覚悟 理論派新人監督は、栗山 英樹
なぜ理論を捨てたのか
KKベストセラーズ ￥1,365
- * 新版・敬天愛人 ゼロからの挑戦
稲盛 和夫
PHPビジネス新書 ￥882

* トヨタ生産方式でドラッカーの『マネジメント』を読み解く 岩月 伸郎
幻冬舎新書 ￥840

世界企業として、なぜ躍進し続けられるのか。トヨタ自動車のモノ造りの三本柱は「品質最優先」「ムダの徹底的排除」「人間の尊重」である。著者は、岡崎市生まれで、現在、デンソーの顧問を務める。「トヨタ生産方式」の生みの親である故大野耐一氏に仕えて、事業展開に貢献してきたノウハウを、ドラッカーの経営論を交えて分かりやすく解説している。「人こそ最大の資産である」という言葉にうなずかされる。
六ツ美中部小 中根 俊忠

「オリンピックで戦いたい」。出られるだけでもすごいと感じる舞台で、中村選手は、次の勝負を夢見ている。陸上を始めて十年で、国内のトップアスリートに成長した理由の一つに、旺盛なチャレンジ精神があったことは間違いない。

高い目標に向けて、努力を惜しまない心を学びたい。

時間を忘れて暗くなるまで遊んだのは、近所の公園や広場だった。そこへ行けば誰か友達がいた。しかし、今、公園で遊ぶ子供の姿をあまり見ないように思う。

一方で、昔遊びクラブに入る子供は増えているという。昔も今も、子供は人とのつながりを求めていると肝に銘じよう。

シオ スア

朝、凍えた手をさすりながら子供たちが登校する。中には、地域の方に背中を押されて、重い歩を進める子もいる。人はそれぞれ、「事情」を抱えて生きている。桜は、冬の厳しい寒さを乗り越えて美しい花びらを身にまとうという。どの子も、冬の寒さとそれぞれの事情を乗り越えて、人として花を咲かせてほしい。

墨にゆっくりと筆をつける。一呼吸し、集中力を高めてから筆を紙に置く。慎重に、そして力強く文字を書き進め、すべてを書き終えて、また一呼吸する。書初め大会でこそ見られる子供たちの姿であり、緊迫感であろう。二〇一三年が明けた。子供たちが作り出す雰囲気の中で、私の気も引きしまる。